

地域ネット活動報告

埼玉県市民ネットワークでは地域ネットごとに様々な調査研修活動を行い、市政に繋げています。今回はその一部をご紹介します。

ひだか市民ネットワーク

持続可能な生活・社会を目指して

ひだか市民ネットワークでは、7月・8月と身近にできる工夫として、「ごみ削減」の啓発活動を行いました。実際に日高のごみの量や種類・処理方法などを日高市の出前講座を活用し、子どもたちもわかる内容で学習会を実施しました。市や自治体の取り組みや削減に対する考え、現状を知ることができました。また、家庭ごみを減らす取り組みとして、実際に段ボールコンポストのワークショップを開催しました。どちらも子どもたちの参加もあり、自分たちの暮らしのごみについて考える良い機会になりました。段ボールコンポスト作りでは、実際に生ごみが分解していく様子を各自が家庭で観察し、循環がより身近になったと感想をいただきました。

2024年度はひだか市民ネットワークは、「持続可能な暮らし」・「生物多様性」をテーマに座学と実践を交えて、身につく体験を実施してきました。この活動を来年度も継続するとともに、新たなテーマへの取り組みもして行きたいと考えています。



越谷市民ネットワーク

こしがや子どもの食を考える会 今年も市長面談

こしがや子どもの食を考える会では昨年、市長面談を行い地産地消の推進、無農薬・無化学肥料の食材の使用等要望を伝えた結果、保育給食に減農薬米である「越谷ふるさと米」の提供を実現させました。

今年は、越谷市、所沢市、吉川市の給食センターの見学や越谷市の学校給食について市の出張講座を受講し、

その学びを踏まえて新たな要望書を市長はじめ担当部課長に提出しました。

要望書の内容も重要ですが、面談を重ねることにより、市長はじめ担当部課長と顔なじみになりざっくばらんな懇談や情報交換ができたことが一番の収穫だと感じました。何かできるところから取り組もうしてくれる姿勢がうれしかったです。



まちネットワーク寄居

自分たちの手で!まちづくり

まちネットワーク寄居では、ネット会員を通じて寄居町の子育て世代と一般の住民の皆さんにアンケートを行いました。子育て世代には今大変と感じていること等、一般では世代別に今の不安、近い将来の不安、現在困っていること、それらを解消するためにどんな支援、仕組みがあったらよいか等です。今年6月に配布、8月に集まったアンケートを取りまとめました。この結果をもとにネット会員、回答して下さった方を含め話し合いの場を11月に持ちます。そ

こでは、今私たちに出来ることやどんな取り組みが必要か、町政に働きかけたいことなど検討していきます。また、今年で10年目になる寄居ネット自慢の木曜野菜市は、地域の有機農業農家から新鮮な野菜を寄付してもらい、その売り上げは寄居ネットの活動資金となっています。この大きな支援は活動の継続と意欲の源になります。



よしかわ市民ネットワーク

知識を得たら、次は行動!

埼玉県自主防災リーダー指導員の二崎博美さんを講師に迎え、防災講座「首都直下型地震の基礎知識」を開催。講師は災害ボランティアで「災害は避けられないが、備えることでダメージを減らすことができる」ことを強く感じたそうで、熱意に裏打ちされた講座は大変わかりやすく実践的なものでした。参加者一同、まず、行動しようという気持ちになりました。



「普段やったことのないことは、災害時にスムーズにできない」というのも印象的でした。離れた家族と連絡が取れないのも災害時のダメージの一つ。お互いの安否を録音して確認できる「伝言ダイヤル171」を上手く使えば、その不安が減らせます。家族で録音する共通の電話番号を平時に決めおくだけで使えるのです。

よしかわネットは「災害伝言ダイヤル171」をまず運営委員会で練習し、会員にも体験してもらう企画をしようと決めました。

はにゅう市民ネットワーク

下水処理場見学ツアー

夏休みの7月30日、はにゅう市民ネット主催の「下水処理場見学ツアー」に小学4年生の娘と共に参加しました。

下水(トイレやお風呂、洗濯やキッチンからの排水)という、毎日の生活から出るお水の行く先ということで説明も興味深く、実際の処理の過程では、広い敷地の中にまるでゲームのコースのように様々なしかけ(処理の過程)がありました。次から次へと場面が変わり、匂いが変わり、最後は広々とした青空の下、魚が泳ぐほどにきれいな水になり流れていく様子は

「最終面クリアー!」とすがすがしい気持ちになりました。帰宅後は娘と下水処理の自由研究に取り組み、生活水を大切に使うことや、この処理の過程が機能しなくなってしまうという危機感を共有することができ、とても有意義な一日となりました。

